



図1 認知症の5歳区分 年齢頻度

女性が多いという印象がありますが、図1の通り、75歳未満では1人あたり1.4人、75歳から80歳未満で1.8人、80歳から85歳未満で2.8人、85歳から90歳未満で4.1人、90歳以上で7.95人です。つまり、90歳以上になると、女性が男性よりも圧倒的に多く、なんと3.5倍です。

●2025年には認知症の人が700万人以上となる日本

私は60年以上にわたり脳外科医として患者さんの診療に従事してきました。今年で91歳になりましたが、自身86歳からは高齢の方々から楽しく日々を過ごせるように、健康的で精神的なアドバイスから死生観に至るまでを3冊の著書にまとめたところがあります。

認知症については、皆さん、それなりに知識を持っておられましようが、今回、暁天講座でお話しさせていただく機会に、認知症をめぐる最新の知識、とりわけ検査方法の進歩とともに早期発見の必要性を、症状改善をもたらす目的から述べ、また、頼りになる最近の予防法について述べたいと思います。

講話

認知症

～高齢者多発と早期発見・予防

脳科学者
医学博士・脳神経外科専門医 宮崎雄二



2019年7月28日に開かれた「第53回 暁天講座」の講話から要旨を採録しました。



宮崎雄二 (みやざき ゆうじ)
1928 (昭和3) 年、北海道小樽市生まれ。脳神経外科医、医学博士 (脳解剖学、脳生理学)。札幌医科大学脳神経外科科長・助教授、米国ハーバード大学脳神経外科助教授のほか、タイ国チュラロンコン大学、フィンランド国オウル大学の各脳神経外科客員教授、横浜市立大学神経内科客員教授など歴任。元・横浜宮崎脳神経外科病院理事長・院長。著書に『65歳からのセカンドライフ』、2019年7月刊の『75歳からのサードライフ～後期高齢者の心、体、死生観』(いずれも幻冬舎刊) など。